

第3学年 国語科 学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 篠原 嶺

1. 単元名 問いを立て古典を探究しようー私たちとの共通点と相違点に着目してー

2. 単元の目標

- (1) 各時代の特徴や筆者の人生を踏まえて『枕草子』『徒然草』『論語』『戦国策』『孟子』を読むことを通して、その世界に親しむこと。 【知識・技能(3)ア】
- (2) 『枕草子』『徒然草』『論語』の主題、『戦国策』『孟子』における人物の言動の意図などを踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。 【思考・判断・表現C(1)ア】
- (3) 問いを立てて読むことで、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。 【思考・判断・表現C(1)イ】
- (4) 古語辞典・漢字源や便覧を参考にしつつ、他者との交流を通して、自分が立てた問いを探究する。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 教材観

2020年『高校国語教育の改善に向けて』(日本学術会議)では、古典教育の問題点として「受験に必要ということを理由とした、品詞分解と固定的な現代語訳の押しつけ的な授業が繰り返されている」ため、古典嫌いの学習者を増やす結果になっていると指摘している。これを改善すべく、新学習指導要領では「古典探究」といった探究的な学びを目指した科目が新設されたが、このような探究を志向した科目には実践研究上の課題がある。それは中学校と高等学校の接続を踏まえた視座がないことである。枕草子や平家物語など定番教材で学んできた中学生が突如として高校では古典を探究的に学ぶことが求められる状況にある。古典教育における中高接続をはかるべく、『枕草子』『徒然草』『論語』『戦国策』(漁夫之利)『孟子』(五十歩百歩)を教材として用いる。『枕草子』『徒然草』『論語』『戦国策』『孟子』に関する教材を、中学1～3年生で学ぶ。そのため、今までの既習事項の復習および定着をはかる教材として適切であるといえる。

内容に着目してみると、『枕草子』「ありがたきもの」や『論語』「仁」などそれぞれに明確な主題が据えられており、その主題に関する当時の人々の価値観や見方・考え方が読み取れる。現代を生きる

私たちにとって、当時の人々の価値観や見方・考え方は異質性または普遍性を感じさせる。これらが混在する点も本教材の魅力の一つといえる。

(2) 生徒観

意識調査Ⅰの「古典（古文・漢文）の授業や学習は好きですか」という質問項目において、肯定的な回答をした生徒は39.2%、否定的な回答をした生徒は60.8%であった。半分以上の生徒が古典の学習を好きでないことがわかる。実際に、古語や時代背景についての知識は乏しく、学んだことが定着していない様子がうかがえる。一方で、「古典（古文・漢文）に関する単語や文法などを学びたいと思いますか」という質問項目において、肯定的な回答をした生徒は72.6%であった。これらのことから古典の授業は好きではないか、古典を理解できるようになりたい生徒が多いことが分かる。古典だからこそ得られる知的興奮や興味深さを味わいつつ、古典の学び方そのもの体得させたい。

(3) 指導観

上述した教材観にあるように、生徒の古典離れを起こす原因の一つとして教師主導によって行われる一斉授業型の現代語訳という学習方法があげられる。渡辺（2022）は国語教育个体史や国語教育実践史に焦点を当て、戦後における古典教育実践の展開を主体と古典観の違いに着目して整理した。そこから古典教育は「教師中心の典型読み」から「学習者中心の創造読み」を追求する傾向を見いだした。訓詁注釈や現代語訳に終始する授業を「教師中心の典型読み」とし、一方で単元を通してパフォーマンス課題に取り組む授業を「学習者中心の創造読み」としている。また菊野（2022）は、『平家物語』における教材的価値に関する研究から得た知見を踏まえ、古文における異質性を無意識・無自覚的に排除する姿勢が古典教材の価値を低下させる要因になっていると指摘する。ここでいう異質性とは、「敦盛最期」における熊谷の首実検やそれに伴う直実の武士としての行為や所作、「扇的」の後藤兵衛実基が行った義経への進言といった現代に生きる我々にとっては簡単には理解しづらいものを指している。これらを踏まえると、古典から読み取れる価値観や見方・考え方の異質性や普遍性の両面に着目し、単元を通してパフォーマンス課題に取り組む授業が古典教育の新たな授業像として浮かび上がる。

この古典から読み取れる価値観や見方・考え方の異質性や普遍性はESDの視点やESDで育みたい資質・能力にも関連する。昨今、価値観や見方・考え方の違いばかりに意識が奪われ、様々な場所で分断が生じている。その異質性に排他的に対峙するのではなく、その異質性に面白さや価値を見出す態度や姿勢が必要だと考える。単元を通して、このような資質・能力を育みたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ①多様性… 古の価値観や見方・考え方は、現代の価値観と異なる部分があること。
- ②相互性… 古の価値観や見方・考え方は、現代の価値観と共通する部分があること。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

①多面的総合的に考える力

現代を生きる私たちにとって古典から読み取れる価値観や見方・考え方は異質さをはらんでいる。その異質さを理解できないものとして排除するのではなく、当時の時代の特徴や生活文化を踏まえて多面的総合的に理解できる力

②つながりを尊重する態度

古典から読み取れる価値観や見方・考え方は現代を生きる私たちと共通するものや通じているものがある。それらを見いだし、文化の通時性に気付ける力

・本学習で変容を促す ESD の価値観

①人権・文化を尊重する

文化や価値観の共通点や相違点を受け止め、それらに価値を見いだす。

・達成が期待される SDGs

目標 4：教育

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
(1) 平安時代や鎌倉時代、春秋戦国時代の特徴、各古典の書き手を理解している。	(1) 各古典の主題や概要などを読み取れている。 (2) 問いを立てて読むことで、文章からものの見方や考え方、価値観を読み取れている。	(1) 古語辞典・漢字源や便覧を参考にしつつ、他者との交流を通して、自分が立てた問いや各古典の面白さを探究している。

5. 単元の指導計画（全 15 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>①既習事項の復習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した古典（古文と漢文）の作品名、内容、成立時代を思い出し、交流する ・単元設定の意図と見通しをもつ。 ・古典に関する意識調査 I を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成立時代に関して社会科で学習した内容と関わらせ、国語と社会で学んだ知識をつなげさせる。 	
2	<p>②『枕草子』「おぼつかなきもの」（68段）と「ありがたきもの」（73段）に関する問いを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読し、概要をつかむ。 ・概要を交流する。 ・選択した教材に関して問いを立てる。 <p>③『枕草子』「おぼつかなきもの」（68段）と「ありがたきもの」（73段）に関する問いを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・古語辞典の使い方を説明する。 ・問いに対する答えを言語化する。 <p>④『枕草子』「おぼつかなきもの」（68段）と「ありがたきもの」（73段）の面白さおよび新たに生まれた問いを言語化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・両教材の歴史的背景や現代語訳を確認する。 ・探究した教材の面白さを言語化する。 ・探究する上で生じた新たな問いを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでみたいと思う教材を選ばせる。 ・「意味がわからない」（what を問う）と「理解ができない」（why を問う）の違いを教える。 ・国語辞典および便覧も使わせる。 ・chromebook は使わせない。 ・理解できている生徒を指名し、解説させる。 ・「面白さ」を捉えるために、価値観や見方および考え方が共通している部分と異なる部分を探すよう教える。 	<p>△イ（2） ワークシート</p> <p>△イ（1） ワークシート</p> <p>△ウ（1） 観察</p> <p>△ア（1） 観察・ワークシート</p>

	<p>⑤『戦国策』「漁夫之利」と『孟子』 「五十歩百歩」に関する問いを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読し、概要をつかむ。 ・概要を交流する。 ・選択した教材に関して問いを立てる。 <p>⑥『戦国策』「漁夫之利」と『孟子』 「五十歩百歩」に関する問いを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・漢字源の使い方を説明する。 ・問いに対する答えを言語化する。 <p>⑦『戦国策』「漁夫之利」と『孟子』 「五十歩百歩」の面白さおよび新たに生まれた問いを言語化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・両教材の歴史的背景や現代語訳を確認する。 ・探究した教材の面白さを言語化する。 ・探究する上で生じた新たな問いを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでみたいと思う教材を選ばせる。 ・「意味がわからない」(what を問う)と「理解ができない」(why を問う)の違いを教える。 <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典、漢和辞典、社会の教科書も使わせる。 ・chromebook と便覧は使わせない。 <ul style="list-style-type: none"> ・理解できている生徒を指名し、解説させる。 ・「面白さ」を捉えるために、価値観や見方および考え方が共通している部分と異なる部分を探すよう教える。 	<p>△イ (2) ワークシート</p> <p>△イ (1) ワークシート</p> <p>△ウ (1) 観察</p> <p>△ア (1) 観察・ワークシート</p>
3	<p>⑧今までの「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問い」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の生徒全員がスプレッドシートに入力した「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問い」を参照し、感じたことや考えたことを交流する。 ・古典に関する意識調査Ⅱを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問い」の内容に着目させて、交流させる。 ・質の高い問いの条件を考えさせる。 	

4	<p>⑨『徒然草』「ある人、弓射ることを習ふに」(92段)と「高名の木登り」(109段)に関する問いを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読し、概要をつかむ。 ・概要を交流する。 ・選択した教材に関して問いを立てる。 <p>⑩『徒然草』「ある人、弓射ることを習ふに」(92段)と「高名の木登り」(109段)に関する問いを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・問いに対する答えを言語化する。 <p>⑪『徒然草』「ある人、弓射ることを習ふに」(92段)と「高名の木登り」(109段)の面白さおよび新たに生まれた問いを言語化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・両教材の歴史的背景や現代語訳を確認する。 ・探究した教材の面白さを言語化する。 ・探究する上で生じた新たな問いを言語化する。 <p>⑫『論語』の「学」と「仁」に関する問いを立てる。</p> <p>【『論語』(学)】</p> <p>○子曰学而時習之不亦説乎有朋自遠方来不亦楽乎人不知而不愠不亦君子乎</p> <p>○子曰温故而知新可以為師矣</p> <p>○子曰学而不思則罔思而不学則殆</p> <p>○子曰古之学者為己今之学者為人</p> <p>○子曰学如不及猶恐失之</p> <p>○子曰由誨女知之乎知之為知之不知為不知是知也</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでみたいと思う教材を選ばせる。 ・前回の振り返りを踏まえて、問いを立てさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・古語辞典、国語辞典、便覧も使わせる。 ・chromebook は使わせない。 <ul style="list-style-type: none"> ・理解できている生徒を指名し、解説させる。 ・「面白さ」を捉えるために、価値観や見方および考え方が共通している部分と異なる部分を探すよう教える。 	<p>△イ(2) ワークシート</p> <p>△イ(1) ワークシート</p> <p>△ウ(1) 観察</p> <p>△ア(1) 観察・ワークシート</p>
---	---	--	--

	<p>【「論語」(仁)】</p> <p>○子曰巧言令色鮮矣仁</p> <p>○子貢問曰有一言而可以終身行之者乎 子曰其恕乎己所不欲勿施於人</p> <p>○子貢曰如有博施於民而能濟衆何如可謂仁乎</p> <p>○子曰何事於仁必也聖乎堯舜其猶病諸夫仁者己欲立而立人 己欲達而達人能近取譬可謂仁之方也已</p> <p>○有子曰其為人也孝弟而好犯上者鮮矣不好犯上而好作亂者 未之有也君子務本本立而道生孝弟也者其為仁之本与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読し、概要をつかむ。 ・概要を交流する。 ・選択した教材に関して問いを立てる。 <p>⑬『論語』の「学」と「仁」に関する問いを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・問いに対する答えを言語化する。 <p>⑭『論語』の「学」と「仁」の面白さおよび新たに生まれた問いを言語化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両教材を音読する。 ・両教材の歴史的背景や現代語訳を確認する。 ・探究した教材の面白さを言語化する。 ・探究する上で生じた新たな問いを言語化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでみたいと思う教材を選ばせる。 ・前回の振り返りを踏まえて、問いを立てさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字源、国語辞典、漢和辞典、社会の教科書も使わせる。 ・chromebook は使わせない。 <ul style="list-style-type: none"> ・理解できている生徒を指名し、解説させる。 ・「面白さ」を捉えるために、価値観や見方および考え方が共通している部分と異なる部分を探すよう教える。 	<p>△イ (2) ワークシート</p> <p>△イ (1) ワークシート</p> <p>△ウ (1) 観察</p> <p>△ア (1) 観察・ワークシート</p>
5	<p>⑮今までの「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問い」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の生徒全員がスプレッドシートに入力した「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問 	<ul style="list-style-type: none"> ・「立てた問い」「問いに対する答え」「古典の面白さ」「新たな問い」の内容に着目させて、交流させる。 	

<p>い」を参照し、感じたことや考えたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に関する意識調査Ⅲを行う。 		
---	--	--

6. 成果と課題（ESD・SDGs との関連を踏まえて）

（1）成果

① 古典を通して文化の通時性に気付く力の育成—「相互性」「つながりを尊重する態度」との関連—

・ 共通点…聖人の教えのような考え方も身分の低い人にも通じる。どんな人でも話は聞くべし！！ また現代でも考えてみると、テストで難しいところは解けているが、ケアレスミスはしてしまうこと。簡単な易き所に現れる。

・ 相違点…昔は一般人にも、木登りや難しいことをこなしていた。当時の体験経験から教訓チックなことを言っている。

生徒 A の振り返りより

生徒の振り返りには、『徒然草』109段に示された「間違いは易きところに現れる」という戒めを、現代のテストにおけるケアレスミスと関連付けて捉える記述が見られた。これは、古典に描かれた価値観を過去のものとして切り離すのではなく、現代を生きる自己の経験と結び付けて解釈する態度が育成されたことを示している。このような学習の姿は、ESD が重視する「相互性」、すなわち異なる時代や文化の間にある共通性を見だし、相互につながるものとして理解する視点の獲得と評価できる。

② 異質性を生活文化から説明しようとする思考の表出—「多様性」・「多面的・総合的に考える力」との関連—

「徒然草 百九段」の面白さについて私は全部で3つ見つけました。1つ目は「間違いは簡単などころです。」という戒めです。なぜならこの戒めは現代と鎌倉時代でさほど戒めの形が変わっておらず、現代になっても使われているという現代と鎌倉時代の共通点を感じることができるからです。2つ目の面白さは鎌倉時代では木を切るときに登って幹の枝を切るところです。現代では脚立など道具に登って幹を切りますが鎌倉時代では道具がさほどないためいちいち登らないといけません。その相違点に私は面白さを感じました。3つ目は鞠が例え話に出てくる現代の相違点です。現代では鞠で遊ぶ文化はあまりないですが、鎌倉時代に例え話として鞠が出てくるということは貴族などで親しみがあつた文化だと解釈することができます。その相違点に私はおもしろさを感じました。以上の三点が私が見つけた「徒然草 百九段」の面白さです。

生徒 B の振り返りより

生徒 A や生徒 B は木登りの場面や鞠の比喩に着目し、鎌倉時代の生活道具の制約や当時の人々の経験を踏まえて、現代との相違点を説明しようとする姿が確認できた。生徒は、「昔と今は違う」とい

った感想にとどまらず、なぜそのような違いが生じたのかを、時代背景や生活文化に求めて考察している。これは、ESDの視点である「多様性」、すなわち異なる文化や価値観を一方向的に評価するのではなく、その成立条件を踏まえて理解しようとする態度が育成されつつあることを示している。また、異質性を「理解できないもの」として排除するのではなく、「面白さ」として価値付ける姿勢は、分断を乗り越える思考態度の基盤となる点で、ESDの理念に沿う成果である。

③ 「面白さ」に関して根拠をもって言語化する力の向上—主体的・対話的で深い学びとの関連—

複数の生徒が、共通点と相違点を整理しながら、『徒然草』の面白さを複数挙げて説明していた。これらの記述は、古典の学習を単なる内容理解や現代語訳に終わらせず、自らの問いに基づいて解釈し、その結果を構造化して表現する学びが成立していることを示している。この点において、本実践は、ESDが重視する「主体的に学び、他者や社会とつながりながら考える学習」の一端を担うものと評価できる。

(2) 課題

① 価値観の比較が発見段階にとどまる傾向—ESDにおける「深い理解」への発展に向けて—

一方で、生徒の多くは、共通点や相違点を「見つける」段階で思考が止まり、それが作品全体の主題や筆者の表現意図とどのように関わっているのかまで踏み込んだ考察には至っていない。ESDでは、単なる理解や共感にとどまらず、価値観を批判的・多面的に捉え直す力が求められる。今後は、「なぜ兼好はこのような例を用いたのか」「この価値観は当時の社会においてどのような意味をもったのか」といった問いを意図的に設定し、価値観の背景や機能にまで思考を深める指導が課題である。

② 問いの質に差が見られる点—探究的学びの質保証という観点から—

問いを立てて読む学習を継続してきたものの、問いの質には生徒間で差が見られた。特に、「何が書かれているか」を問う問いから、「なぜそう書かれているのか」「それはどのような価値観を示すのか」を問う問いへと転換できていない生徒も存在した。持続可能な社会の担い手を育成する教育として、探究の質を高めるためには、問いそのものを比較・評価する活動や、質の高い問いの条件を共有する指導が必要である。

③ 他作品・他文化との横断的比較への発展

本時では、『徒然草』一作品の内部で共通点と相違点を捉えることができていたが、『枕草子』『論語』など他教材との関連付けや、日本と中国古典の比較にまで思考を広げる生徒は限られていた。ESDの観点からは、個別事例の理解にとどまらず、複数の文化や価値観を横断的に捉える視点の育成が重要である。今後は、単元全体を貫く比較の観点をより明確にし、学習成果を統合的に振り返る場の充実が課題となる

現在の学年終了時に目指す姿

地域・社会・世界で生きる人々と自分自身には慣習・生活・文化において共通点や相違点があり、それらを受容し、地球市民として仲間意識をもつことができる。



自分たちが住む地域が抱える社会問題と他の地域が抱える社会問題に共通点はあるのかな。

特別活動「京都めぐり」

相互性

京都と奈良の文化は親和性があり、相互に影響を与えながら発展してきた経緯があることを理解する。

また「奈良めぐり」を通して学んだオーバーツーリズムに関する社会課題は京都において異なったあらわれ方で問題となっていることを理解する。

総合的な学習の時間「水俣・阿蘇修学旅行」

多様性

水俣病という言葉でまとめられているが、その症状は多様であり、被害者および被害者家族それぞれに様々な被害があったことを理解する。

国語「問いを立て古典を探究しようー私たちとの共通点と相違点に着目してー」

○ESDの視点（見方・考え方）

多様性

古の価値観や見方・考え方は、現代の価値観と異なる部分があること。

相互性

古の価値観や見方・考え方は、現代の価値観と共通する部分があること。

○ESDの資質・能力

多面的総合的に考える力

古典から読み取れる価値観や見方・考え方は異質さははらんでいるが、それらを排除するのではなく、時代背景や生活文化を踏まえて多面的総合的に理解できる力

つながりを尊重する態度

古典から読み取れる価値観や見方・考え方は現代を生きる私たちと共通するものや通じているものを見出そうとする態度

戦争は単純に善と悪の対立ではなく、それぞれの国の思惑や立場が相互に影響を与えているんだなあ。

社会科「第1次世界大戦」(日本文教出版)

多面的総合的に考える力

第1次世界大戦が起こってしまった原因を単純化するのではなく、それぞれの国の背景や立場を踏まえて探究する。また、戦争を起こさないために取り組むべき政策を当時の時代背景を踏まえて探究する。

特別の教科道徳「希望の義足」

つながりを尊重する態度

無償で提供していた義足に対する患者の「嫌だ」という言葉から、一人一人に誇りやこだわりがあり、人種や国籍は異なるが、見方や考え方、価値観において共通点があることを理解する。